

平成28年度
第3回 神崎中学校区統合校運営委員会

日時：平成29年2月9日（木）
19:00～

場所：こうざき校区公民館・集会室

I 開会のことば

II 委員長あいさつ

III 議事

【1】 経過報告

【2】 協議・報告

【3】 その他

IV 閉会のことば

IV 議事

【1】 経過報告

1 第3回統合校運営委員会までの経過報告

- ・ 11/ 9(水) 通称募集に係る協議 (委員長、副委員長)
- ・ 11/ 9(水) 神崎中学校区公開研究発表会
- ・ 11/10(木) 通称と制服アンケートに係る協議 (小中学校長)
- ・ 12/ 1(木) ~ 16(金) 通称募集、制服アンケートの実施
- ・ 1/17(火) 事前協議 (小中学校長)
- ・ 1/19(木) 事前協議 (委員長、副委員長)

【2】 協議・報告

- 1 小中一貫教育校の運営に係る検討
- 2 通称、校歌、校章の改正に係る検討
- 3 制服の導入に係る検討
- 4 P T A組織の改編に係る検討
- 5 統合に伴う環境整備
< 今回協議なし >
- 6 通学環境の整備
- 7 小規模特認校制度の導入に係る検討
< 今回協議なし >
- 8 その他
< 今回協議なし >

【3】 その他

- 1 第4回統合校運営委員会の開催について
○5月25日(木) 19:00~
こうざき校区公民館・集会室
○開催案内 4月下旬に発送予定
- 2 所管する課の変更について

第3回神崎中学校区統合校運営委員会

資料集

【2】 協議・報告

1 小中一貫教育校の運営に係る検討 < 担当：学校、教育委員会 >

(1) 小中一貫教育校の運営について

① 小中一貫教育校の具体的な内容について

・別紙資料 参照

② 保護者を対象にした説明会の実施について

・こうざき小学校PTA総会 4月28日(金)

・神崎中学校PTA総会 5月2日(火)

・別冊資料集、実施計画のパンフレット 参照

* 要望に応じて保護者、地域住民を対象にした賀来小中学校の視察

・実施する場合の候補時期：5月下旬～6月上旬又は6月下旬

・内容：授業参観、学校からの説明

・実施の有無

参考：H26年11月13日

神崎中学校区適正配置地域協議会の委員等の15名が参加

* 要望に応じて保護者、地域住民を対象とした小中一貫教育に関する講演会

・実施時期を含め検討 7月頃(学期末PTAなどを活用)

7月～8月(別途日程を検討)

・実施の有無

参考：H27年11月14日

こうざき校区公民館完成記念事業

賀来小中学校長：演題「小中一貫教育について」

今回協議なし

(2) 大分市コミュニティ・スクールの導入について

28年度 小学校、中学校に学校支援協議会を設置

・成果や課題を整理



29年度 小中学校に学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)を導入(合同で実施)

2 通称、校歌、校章の改正に係る検討

＜ 担当：保護者、自治会、教育委員会 ＞

(1) 通称の検討について

① スケジュールについて

12月 通称案の募集

12月 1日号の市報と同時に

「NEWS第2号」の回覧 と「応募用紙」の全戸配布

2月(第3回) 通称の候補案を絞り込む → 教育委員会に報告

② 集約結果について

・別冊資料集 参照

(2) 校歌、校章の検討について

① 校歌の方向性について

○校名の変更がなかったので、校歌についても現在の校歌を使用する。

○小中学校としての校歌は、1番を小学校の校歌、2番を中学校の校歌を使用することで対応する。

*賀来小中学校は、小学校、中学校それぞれの校歌を使用し、小中学校合同の行事等では、1番を小学校、2番を中学校の校歌で対応している。

② 校章の方向性について

○中学校の校章は、現在の校章を使用する。

○小学校の校章は、現在の校章を使用するか、新たな校章を制作するか検討する。

*校名：こうざき小学校、校章：神小・・・別冊資料集 参照

○小中学校としての校章を新たに制作するか検討する。

*賀来小中学校は新たな校章を制作した・・・別冊資料集 参照

③ 校章検討のスケジュールについて

4月～6月 児童生徒が校章案を制作

7月 専門家に委託

10月(第5回) 校章案の提示

3 制服の導入に係る検討 < 担当：学校、保護者、教育委員会 >

- (1) スケジュールについて
12月 アンケートの実施
2月(第3回) アンケートの集約結果をもとに方向性の確認
- (2) 集約結果について
・別冊資料集 参照
- (3) 方向性について
○ 制服のデザインは現在のデザインを引き続き採用する。
○ 制服は現行どおり7年生からとする。

4 PTA組織の改編に係る検討 < 担当：保護者、学校 >

- (1) 統合後のPTA組織について
① 方向性についての検討
- (2) 同窓会組織について
① 組織の意向確認

今回協議なし

5 統合に伴う環境整備 < 担当：教育委員会、学校 >

- (1) 校舎からプール・体育館への移動経路の整備について
完成予定時期：29年2月下旬頃 . . . 順調に進捗
- (2) 神崎中学校のテニスコートの整備について
完成予定時期：29年3月中旬頃 . . . 順調に進捗
- (3) こうざき小学校の校舎外壁改修について
完成予定時期：28年10月下旬頃 . . . 完成

6 通学環境の整備 < 担当：学校、自治会、教育委員会 >

(1) 県道715号線の幸崎駅周辺の改善に向けた取組について

- ・白線の塗り直し、緑線の追加などの作業（県への要望済）
- ・今後どのような要望を行うのか、具体的な内容の検討
学校 → 学校教育課・児童生徒支援室に要望
自治会 → 市民協働推進課・生活安全推進室に要望
- ・幸崎駅南の踏み切りはJR、道路は県道のため県への要望となる



2月（第3回）の報告

- ・幸崎駅から小学校への通学路を旧軽便鉄道の歩道へ変更する
- ・中学校前の横断歩道を、旧軽便鉄道の所に移動することを検討する

今回協議なし

(2) 神崎中学校前のバス停留所の改善に向けた取組について

- ・大分バスは、停留所設置については対応しない。
- ・民有地を確保して、地元自治会等が設置する。

今回協議なし

(3) 通学路の安全確保に伴う防犯灯の設置に向けた取組について

- ・旧軽便鉄道の歩道に係る現地調査・・・10月6日（木）
稲生委員長、伊藤副委員長、学校、教育委員会で実施



- ・課題を整理し、地元自治会等に依頼・協議

今回協議なし

7 小規模特認校制度の導入に係る検討 < 担当：学校、教育委員会 >

(1) 小規模特認校制度の導入に係る検討について

○今後のスケジュール

28 ～ 29 年度 導入に向けた課題の整理

- ・ 特色ある教育活動 → 教育課程の検討
- ・ 幸崎駅からの通学路の検討

30 年度 併設型小中一貫教育校への移行

- ・ 秋までには教育委員会で制度導入の決定
- ・ 市報等を通じて制度の周知

31 年度 小規模特認校制度の導入

- ・ 31 年度 入学生、転校生から制度利用が可能

今回協議なし

8 その他 < 担当：学校、保護者、自治会、教育委員会 >

(1) 統合記念事業について

30年度に実施するので、29年度から検討予定

■ 今後のスケジュール

	28年度	29年度	30年度
学校の運営	小中一貫教育校の運営、コミュニティ・スクール導入の検討		小中一貫教育校への移行
学校名 校歌 校章	学校名の検討	校歌・校章の検討	
PTA	PTA組織の検討		
制服	制服の導入に係る検討		
環境整備	移動経路、テニスコートの整備、校舎外壁改修		
通学環境	神崎駅周辺、バス停留所、防犯灯の設置に向けた取組		
特認校制度	小規模特認校制度の導入に係る検討		
記念事業	統合記念事業の検討		

* 小規模特認校の導入は平成31年4月を目標とします。

第3回神崎中学校区統合校運営委員会

別冊資料集

平成28年12月実施 保護者対象 制服についてのアンケート集約結果

(3) その他ご意見、ご要望など

○ 小中一貫教育について

- ・なぜ5年生から中学校舎に移るのかわからない。今のままでよいと思うが・・・。
- ・中学生との連携を強くするのはいいと思うが、校舎の分け方も賀来にならう必要はない。
- ・校舎は今までと同じ7～9年生が中学校舎を使用すべき。試験の時などに気になる。
- ・今までどおり1～6年、中1～3年として連携を取りながら交流があり、それぞれの良い所を伸ばすような体制で進めてほしい。
- ・運動会と体育祭は合同なのか。6年生になって団を引っ張っていく姿が見れないのはさみしい。
- ・小中一貫導入に関するアンケートも取ってほしかった。賀来を参考に進んでいるようだが、人数にも差があり、小学校舎に1～4年生だけではさみしい。小中の連携はよいが、卒業式などは現行どおりにやってほしい。
- ・4年生は6年生になる年に併設型小中一貫になる。親はもちろん子どもたちも含め、最高学年で活躍できる場がなくなるのがとても残念。卒業式などなくなるのはいや。
- ・4年で最高学年、6年でできるはずだった最高学年としての行事がないままに中期の学年になる。中3という受験に大切な時期に、同じ校舎に5年生が来て騒がしくなる等、他の学年にはない不安もある。卒業式や体育祭はどうなるのかなどの説明もない。
- ・前期、中期、後期に分ける併設型にみんな賛成なのか。一部地域の方と代表者の方の意見だけで、どんどん決まっている気がしてなりません。神崎校区は人数も少なく、今までも小中の連携はわりと取れていたし、交流もあったと思う。パンフレットができた事でほぼ決定という様な進め方に不信感は募るばかり。
- ・話がどんどん進んでいる。小中一貫のメリットがまったくわからない。

○ その他

- ・PTA 総会などの質問や意見が出しにくい場での説明では有意義ではない気がする。
- ・今のままでよい。自然豊かなこの地域の特色を活かした学校であってほしいと思う。
- ・知らないうちに話が進んでいる。役員さんだけで決めることが多いので、不信感がつのり不安。

平成27年10月13日

大分市教育委員会
教育長 三浦 享二 様

神崎中学校区適正配置地域協議会
会 長 稲生 亨

神崎中学校区適正配置地域協議会の報告書の提出について

神崎中学校区適正配置地域協議会は、「大分市立小中学校適正配置基本計画」に基づき、神崎中学校区の適正配置を検討するために、地域住民の代表者や保護者、学校関係者等で構成し、平成26年7月に組織されたものであります。これまでに10回の協議を経て、次のとおり地域協議会としての意見を取りまとめましたので、報告書を提出いたします。

(1) 協議事項

神崎中学校区の適正配置について

(2) 地域協議会としての合意事項

- 統合の時期については、木佐上小学校は平成27年4月、大志生木小学校は平成28年4月とする。
- 統合後の学校が目指すべき方向性については、下記のとおりとする。
 - ・小中一貫教育については、現在取り組んでいる連携型小中一貫教育と併設型小中一貫教育について、本校区の実情を十分に勘案した上で、魅力ある学校となるよう検討していただくことで、大分市教育委員会の決定に託する。
 - ・小規模特認校制度については、本校区の児童生徒数の減少傾向が予想されることから、制度の導入を希望する。
- 統合に伴う通学支援については、定期運行のバス等定期旅客運賃額の支給、自動車利用に伴う燃料費補助、教育委員会によるスクールタクシー等の運行とする。支援方法については、各家庭による選択制とし、通学支援期間は、統合年度から12年間とする。

(3) 地域協議会の取り組みの概要

本中学校区の3小学校は、今後も児童数の減少傾向が予想されており、集団の機能を生かした教育活動を日常的に実践することが困難になるなどの厳しい現状を認識してきた。

このような中、大分市教育委員会が策定した「大分市立小中学校適正配置基本計画」に基づき、木佐上小学校、大志生木小学校の2小学校をこうざき小学校に統合し、神崎中学校との小中一貫教育の充実を図るとともに、小規模特認校制度の導入を検討することなどについて、地域協議会の協議を開始した。

統合の時期については、平成26年10月に木佐上小学校区から、児童数の減少により平成27年3月末まででこうざき小学校と統合することの意向が示された。その後、平成27年5月には大志生木小学校区についても同様の理由により、平成28年3月末までで統合することの意向が確認された。

また、小中一貫教育や小規模特認校制度については、平成26年11月に併設型小中一貫教育校である賀来小中学校や小規模特認校である神崎小学校を視察するなどの取組を行い、協議を行ってきた。小中一貫教育については、併設型小中一貫教育のメリットは理解でき大きな効果が期待できるものの、本校区でもうまくいくのかといった不安もあり、大分市教育委員会の決定に託することで合意を形成するに至った。

統合後の学校については、これまで以上に3校区が連携し、学校運営を継続的に支える覚悟であり、保護者・地域の願いも実現できるような学校となるよう、切に願うものである。

第7回協議会における主な内容を掲載しています。
(発言内容については、紙面の都合で要旨のみとしています。ご了承ください。)

◆小中一貫教育、小規模特認校制度についての意見

【委員】教育委員会としては小規模特認校制度をどういう形で周知しているのか。

【事務局】この制度で学年途中の転校ということがあるので、小中学校全部に周知をしている。在学小学校長と保護者で相談して転校という事がある。新1年生については、就学時健診の折に指定校以外の学校に行くには3つの制度があり、隣接校選択制、学区外就学、小規模特認校制度があるという形で話をしている。1学年1学級の状態を目指してやっているが、児童数の確保というなかで教育委員会も今まではチラシを市立幼稚園に配付していたが、今は公私立の保育所や私立の幼稚園についてもチラシを配り、まず、制度を知っていただくというところからはじめています。最近1年生から入学する子どもが多いというのは、市立の幼稚園以外のところも含め、制度の周知が進んだということもあるかと思う。

【委員】未就学児童数の調査が次の会議では出せるのか。

【事務局】これから6年間までのある程度の統計の数は出せる。

【委員】今の統計の中で、佐賀県地区の全体の昨年度生まれた子どもは16名ということが判ってきた。16名というと、28年度に統合して神崎中校区が一つになって佐賀県地区に小学校が2校という状態になった時に佐賀県地区には6名、こうざき校区には10名という状況である。もう数年経つと6年後には1年生が10名、仮にこの状況でどんどん少なくなると、おそらくその数年後には統合した後でも複式学級になる可能性がある。そういった時に、この小規模特認校制度を、どのような形で活用していくかという事をそれぞれ校区に持ち帰っていただき、学校で話題にしたり、地域で話題にしたりして、次の協議会までには方向性というものが出てくるとよいのかなと思う。
上戸次小学校で今年の入学生が15名という話があった。元々上戸次小学校区の子どもだけで数えると5名ということで、15名というのは、実は大きな意味をもつ数字で、15名いれば単独の学級が確保できる。今後児童数が減少していくという中で、さらに魅力ある学校になって他の校区からも選んで来てもらえる状況を創り出していくという事が地域全体の活性化に繋がるのではないか。

【委員】小規模特認校制度を導入した上で、小中一貫教育もあるのではないかと、子どもが増えないと小中一貫教育もあやふやなまま終わるといふように思うのだが。
小規模特認校制度を導入した上で、魅力ある学校作りというか、特別校というような考え方をもちたい。自然はあるということだから確かにいいと思うが、それよりもここに来ることで、スポーツが盛んな所なので、いろんな事を学びたい、例えば英語の授業は同じ時間になっているかもしれないが、英会話の先生だとか特別に授業ができるだとか、放課後にできるだとかいうような考え方で、魅力あるものになれば小規模特認校として子どもも増えるのではないかなと思う。今のままだと何が魅力あるというのが見えないので、できれば特認校というのが、特別校であって尚且つその上でそのまま小中一貫教育に移行するという事はできないのか、2つやるといふ事はできないのか。

【委員】小中一貫教育と小規模特認校は全く別物だから、両方採り入れてもかまわない。ただ、小規模特認校制度を導入するにしても何かアピールポイントが必要である。
部活の事、英語の事とかいろんなアピールポイントがある中で、選んでもらえる学校になりやすいという事は確かだと思う。

【委員】小中一貫教育にそこまで魅力を感じてくれる保護者がそんなに多いものなのか。説明を聞いて、いいなと思うが、実際に賀来小中学校に行っている友人に話を聞いてみても、ここしか知らないのだからこういうものかと思うが、そこまですごくいいものかとは思わないと聞いて、小中一貫教育になったからといってここを選んでもらえるかと言えば、賀来小中学校ほど人数で充実していないし、先生の人数もそんなに割いてくれないだろうから、ここでやったからといって賀来ほどうまくいくのかなと疑問があるのだが。

【委員】小中一貫教育になれば何もかもうまくいくという事ではなく、何か他の学校との違いを作らないと特色にならない。賀来に行ってみたらわかるが、校舎は古い、でも人が増えているというのは、これがアピールポイントになるのだろうと思っている。小中一貫教育でなぜ併設型と連携型とがあるかといえば、今このまま統合して1校になった時に、こうざき小と神崎中になった時に、別にこのまま併設型にしようが連携型にしようが大きく変わることはない。ただ一つ最大の違いがあるのは校長が一人になる。併設型であれば、どちらかの校舎に校長が居て兼ねる形、その分人が減るのではなく、その分は教諭の先生が増える。授業する人が増えるので、例えばそれが英語の教師であれば英語の先生が小学校に行くと授業ができる。賀来も校長が減った分は教諭が増えるので余分に授業することができ、その分が小学校の段階から英語教育できるという事になるので、これもアピールポイントになる。そういう形で寄せ集めることで、それぞれ利点をカバーしあえるということで、一つの学校になるのはそういうメリットがある。

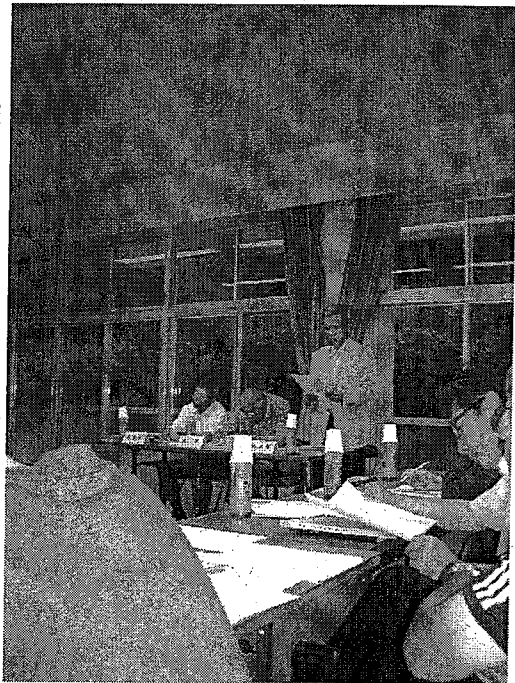
大志生木小学校区において閉校に係る 閉校記念事業実行委員会が発足

◆大志生木小学校閉校に係る閉校記念事業実行委員会の発足について

【委員】6月21日、日曜日の13時から15時にかけて、大志生木縦の木会館において、閉校記念事業実行委員会の発足式を行なった。当日は、地域、学校、保護者会から選ばれた委員と教育委員会より出席をいただいた。

実行委員会に次の3つの委員会を設けた。(1)記念誌・記念碑検討委員会、19名で構成。(2)閉校式典検討委員会、19名で構成。(3)学校跡地利用検討委員会、16名で構成。各委員会には委員長、副委員長、書記を置くこととした。また、各委員会、教育委員会、並びに大分市との連絡や全体調整のため閉校記念事業実行委員会の執行部として、当地域協議会の委員である伊藤委員を会長、佐藤委員、藤澤委員、小玉委員の3名を副会長としている。

発足式では、校長、教育委員会学校施設課の池辺課長、会長のあいさつ、出席者の紹介、教育委員会からの説明、質疑応答を行なった。その後、3つの委員会に分かれて、役員を選出、委員会の役割の確認、今後の日程等について協議した。協議終了後に再び全体会を行なって各委員長から役員選出結果、協議内容について報告し合った。今後、各委員会は7月あるいは8月からスタートすることを確認した。



第8回協議会における主な内容を掲載しています。

(発言内容については、紙面の都合で要旨のみとしています。ご了承ください。)

◆小中一貫教育(連携型、併設型)の意向、小規模特認校制度の導入の意向 についての意見

【委員】賀来小中学校のような併設型について、視察にも行って大変よいと思うところが多いが、神崎のように9年間全然クラス替えもなく、小学校も中学校も全く同じメンバーの状況で環境の変化がないと、かえって弊害になるのではないか。ここでやる場合は併設型よりも連携型でいく方がこの地域には合っているのではないか。

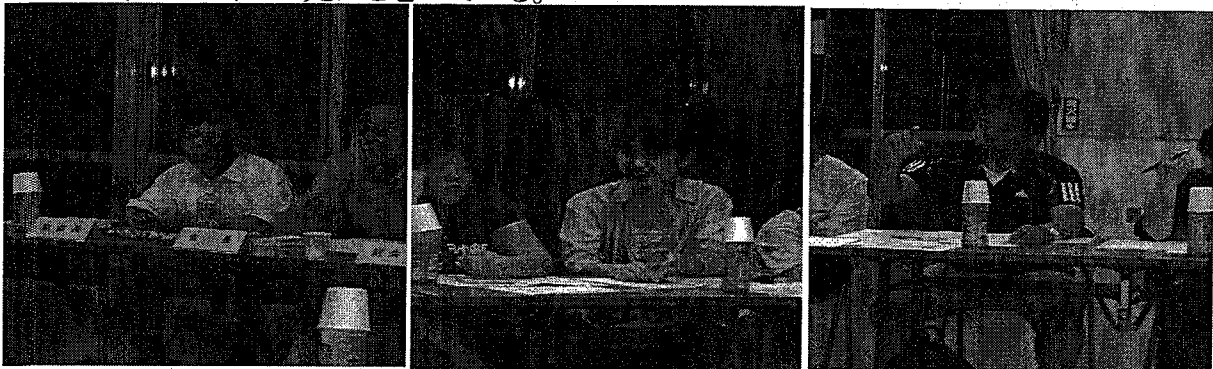
【専門委員】単学級で9年間が心配というのはわからなくはないが、併設型、連携型のどちらにしても小中一貫教育は既にやっている。神崎の子どもたちは神崎の地区で育てましようというのはもともとコンセプト。学級の規模は40人を超さないで2学級にはならない状況があり、小学校と中学校が別々でも単学級であることは変わらない。

【委員】小学校を卒業した、中学校に入学しますといった、きちんとした区切りが曖昧になってしまうので、区切りはちゃんとつけた方が、子どもたちにメリハリがついてよい。中1ギャップについては併設型の方がギャップは少ないという説明もあったが、元々環境変化の少ない学校で、そこまで心配しなくてもよいと思う。

【専門委員】仮に併設型とした場合に、平成31年度から英語の授業が本格的に日本全国で始まる時に、中学校の英語の先生から授業してもらおう事が可能になる。理科などもメリットがある。中学校の校舎に入れば濃度が上がり、回数が増えるというメリットがある。

節目をつけるということ言えば卒業式であろうが、修了式であろうが、学校行事のやり方という事で前期の修了式のときに、地域の方に来ていただいて大々的にやって、地域の方がみんな祝福してくれるということが出来るのであれば子どもたちにとってよい節目になる。賀来では中期も立志式という形でやっていて、節目節目をつけるということ子どもたちは過している。

- 【委員】まず子どもたちを増やす事のほうが先ではないか。小規模特認校制度で、まず魅力ある学校づくりをして、それから小中一貫教育というほうが前向きではないか。
- 【専門委員】小規模特認校制度はどういう理由で選ぶか。1つは他校にはない特色のある教育活動を自然豊かな中で、うちの子もああいう教育を受けさせたいなどと思って選ばれる方が多い。その活動はどうやって生まれてきたかという、地域の方だとか、地理の特性、自然の特性というのがあるが、指導者を呼んでという準備にはかなりの労力と準備を積み上げてきている。2番目に、全部の先生方が自分の子どものことをよく理解してくれるような環境を選ばれる方が多い。それと、自力通学が条件なので、手段や経費も確保でき条件をクリアしてでも行きたい保護者が選んでいる。来てもらえるような魅力づくり、環境整備を行い、地域の方も他の校区から入って来る子どもたちを、地域の子どもたちと同じように受入れてというような体制をつくり上げることが必要。
- 小中一貫教育については3校が統合になると、1小1中という形となる。しかも学校が隣同士に併設されているような地理的な環境がメリット。教育の目標や計画も小学校から中学校まで先生方が一緒になって教育計画を作る段階から、声かけのやり方や学習のルールなど、一体的にしやすい環境になる。
- 【委員】小中一貫教育と小規模特認校制度は次元が違う。小規模特認校の特色として小中一貫教育を看板にするという事ではない。併設型の小中一貫教育の9年間で、新しい試みの教育体制をつくってやってみたい、それによって子どもたちの能力を伸ばして行きたい。小中一貫教育のほうが今は重要。小学校の時に小規模特認校を導入すれば、子どもたちが集まって神崎で9年間預けるよという親たちも増えてくる、学校も存続できる、自分たちの子ども、孫たちを地元の学校で安心して任せられる、そういう体制をつくりたい。小規模特認校制度が先ではなくて、小中一貫教育をきちっとつくっていくのが先だと思っている。



- 【委員】19日に神崎海岸の清掃をして、大志生木小からもバスに乗って子どもたちが来てくれた。我々自治委員も何人か立ち会って、子どもたちの海岸清掃に付き合ったが、18班に分け中学3年生がリーダーで小学生1年生までが1つのチームをつくって、中学生が小学校1年生を引っぱって一緒に行っている姿を見て、昔我々がやっていたことだなあということを感じた。学校でこういう機会をつくらないと、子どもたちにそういう経験がない。状況が変わる中で、子どもたちを取り巻く世界が変わっていく、同じ6・3制で同じ教育をしても子どもたちが同じように育つわけではないので、そこで何か工夫し、教育委員会もいろいろ実践しながら、研究しながらやっているのだろうと思う。この地域協議会で私もいろいろ学んだが、決して教育委員会が小中一貫教育を押し付けているわけではない。教育委員会は統合した後に安心して、どうすればよりよい教育を受けられるのかという事を考えている。統合をチャンスとして他所にはないような小中学校を作れたらいいと思っている。
- 【委員】今言われたように、教育委員会は今後の教育のあり方も、人数が減る事も心配してくれている。小中一貫教育も魅力、小規模特認校で人を増やすためには魅力ある学校をつくらなければいけない。学力の向上や他の学校には無い新しい教育も選択できると思う。
- 【委員】28年4月から統合して1校になれば、校区がものすごく広がる。それぞれの地域の特色を生かせばいいと思う。従来どおりの学校の体制ではなく、一つの方向性を持ってやっていかないと、6年後には中学校も74名、小学校も90名というような状況になる。この神崎中学校区から発信する体制をつくっておかないといけない。学力やスポーツなど、特色のある学校をつくってもらいたい。統合した後は少し増えるが、その後人数が減っていくという状況であるから、子育て世代が入って来なければこの状況が続く。校区外から入ってくるような魅力を発信する状況じゃないといけない。
- 【委員】学力が一貫教育の併設型にしたから、いきなりよくなるという事はないことも十分踏まえてやっていかないといけない。学校、PTAだけでは進めないで、地域も一緒になって考えていかないといけない。

第9回協議会における主な内容を掲載しています。

(発言内容については、紙面の都合で要旨のみとしています。ご了承ください。)

◆小中一貫教育(連携型と併設型)についての意見

- 【委員】地域協議会で小中一貫教育の件を決めるというのはどうなのか。今いるPTAやこれから入ってくる地域の方たちにアンケートをとるといふ事はできないのか。
- 【委員】今まで視察にも行って併設型とか連携型とか話し合ってきた。今からアンケートとなるとここまで1年間費やしてやってきたことが無意味になってしまう。個人的な意見としては併設型で、尚且つ小規模特認校としてどこからでも来られるような魅力ある学校づくりを進めるのがよいと思う。教育委員会としても子どもが減ることに対してこれではいけないということで考えてくれていると思う。個人的には教育委員会に任せてよいと思う。
- 【委員】3校統合後に、人数が少なくなって、先生も少なくなったとき、賀来小中学校は先生の数が多くて、勉強のできない子どもをみられるというところがあった。こちらでは先生が少ないのでできないとか、そういう事になると困るのだが。
- 【専門委員】統合することによって併設型の小中一貫教育を目指せば、小学校と中学校で校長が1人となる代わりに教員は1人増える。今の形で連携型を継続した時と併設型を進めようとした時にどちらのほうが先生の数が増えるのかと考えた場合、併設型にしたほうが実際に指導にあたる先生の数は確保しやすくなる。
- 【委員】併設型に変えてやってみて、また保護者のほうから反対の意見が出たら連携型に戻るといふ事もできるのか。併設型にしたらずっと併設型でいかないといけないという事なのか。
- 【専門委員】学校教育法が変わり28年4月から、小学校でも中学校でもない9年制の義務教育学校を設置できるようになった。一旦、義務教育学校にした場合、小中学校がそれぞれ独立した連携型に戻せないことはないが、条例を変える必要があり、議会での議決が伴うので一定の時間がかかる。しっかり話し合っていたきたい。
- 【委員】保護者の方に聞きたいのが、なぜ連携型がよいのか、併設型がだめなのか。まだ時間的に協議する機会があるので、この点は併設型がよい、この点は連携型がよいという具体的なものを挙げたほうがよいのではないか。私も賀来小中学校に視察に行ったが、校長先生も欠点というのは見つからないと言っていた。保護者も是非そういった事を信じてやってほしいと思う。
- 【会長】教育委員会は問題点があれば改善しながら失敗のないように十分取り組んでくれると思っている。併設型、連携型の両方の意見があるが、我々としては意見がまとめられないという事で、教育委員会が設置者であり責任者であるので、方向性についての決定を任せ、我々はそれに協力していくということでよいか。

神崎中学校区併設型小中一貫教育校の通称についての応募用紙

平成30年4月に移行を予定しております神崎中学校区の併設型小中一貫教育校は、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育校です。

学校の正式名称については、今までどおり「こうざき小学校」「神崎中学校」を使用することを神崎中学校区統合校運営委員会で確認しました。

つきましては、併設型小中一貫教育校の通称について児童生徒、保護者、教職員、校区にお住まいの方にご意見をお聞きし、今後の検討の参考にしたいと考えています。

なお、裏面に今後のスケジュール等の参考資料がありますので、ご覧ください。

<応募期間> 平成28年12月1日(木)～平成28年12月16日(金)

<応募できる人>

神崎中学校区の児童生徒、保護者、教職員、神崎中学校区にお住まいの方
(卒業生については、校区の居住者に意向を伝え、校区居住者が代表して提出すること)



<留意事項> ○難しい漢字、誤読しやすい漢字は使用しない。
○市内の他の校名と同様の通称は使用しない。
○通称には「小中学校」を使用する。



<参考>

併設型小中一貫教育校である賀来は、正式名称は「賀来小学校」「賀来中学校」とし、「賀来小中学校」を通称としている。

<応募用紙>

応募用紙は全戸配布しますが、必要な場合は、学校に準備しています。
なお、①住所、②氏名、③通称案、④理由(思い、願いなど)が記入されていれば、用紙は問いません。
*個人情報については、目的以外には使用しません。また、終了後、応募用紙は速やかに廃棄します。

<提出先>

児童生徒、保護者、教職員 : こうざき小学校、神崎中学校
校区居住者 : 各自治委員(各学校においても提出可)
*自治委員さん方は、自治区から集まった応募用紙を12月19日(月)に「こうざき小学校」又は「神崎中学校」へ提出をお願いします。

*裏面に参考資料があります。

..... 切り取り線

神崎中学校区併設型小中一貫教育校の通称についての応募用紙

①住所 (学校名・学年)	※児童生徒は、学校名・学年だけを記入
②氏名	
③通称案	小中学校
④理由 思い、 願い など	

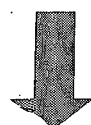
神崎中学校区統合校運営委員会

<参考資料>

神崎中学校区適正配置の取組経過と今後のスケジュール

神崎中学校区の適正配置の取組経過と今後のスケジュールをまとめてみました。

H26年 7月 神崎中学校区適正配置地域協議会を組織



- 木佐上小学校、大志生木小学校の2小学校をこうざき小学校に統合することについて、地域としての合意形成を図るため、地域住民の代表、保護者、学校関係者など29名で構成しました。

H27年10月 神崎中学校区適正配置地域協議会が報告書を提出

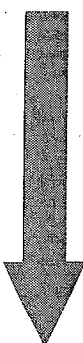
- H26年7月～27年10月までに10回の協議を行いました。
- 統合の時期については、木佐上小学校は平成27年4月、大志生木小学校は平成28年4月とすることなどを合意しました。

H28年 1月 神崎中学校区適正配置実施計画を策定

大分市教育委員会が神崎中学校区適正配置実施計画を策定しました。

- 統合後の学校が目指すべき方向性
 - ①小中一貫教育について
平成30年4月に併設型小中一貫教育校へ移行
 - ②小規模特認校制度について
平成31年4月に小規模特認校制度を導入
 - 統合に伴う通学支援
 - 統合に伴う環境整備
- * 詳細については、実施計画パンフレットを4月に全戸配布しています。

H28年 6月 神崎中学校区統合校運営委員会を組織



- 神崎中学校区における小中一貫教育校の運営に係る準備や小規模特認校制度の導入等を円滑に進めるため、地域住民の代表、保護者、学校関係者など14名で構成しました。
- 平成28年度～29年度の2年間協議を行う予定です。

統合校運営委員会では、通称、制服、校歌、校章などについて検討するとともに、通学環境の整備や環境整備などについても検討を行う予定です。

H30年 4月 併設型小中一貫教育校へ移行

H31年 4月 小規模特認校制度の導入

* 表面に通称の応募用紙があります。

< 応募された通称案数 26 >

こうざき小中学校:⑧

- ・「神崎」よりも「こうざき」の方が低学年にはわかりやすい
- ・名前を聞いてどこにある学校かわかる名前がよいと思う
- ・ひらがなは他にないので、目立つし、わかりやすい(新聞などに載った時など)
- ・部活動で九州大会や県大会に出るようになり、名前が知られるようになったのに、まったく違う名前ではもったいない気がする

神崎小中学校:⑦

- ・地区名の方が覚えてもらえるから
- ・わかりやすのが一番だから
- ・伝統のある名前、消えてほしくない
- ・一番馴染みのある名だから
- ・そのままの方が、どこの地域の人が聞いてもわかりやすいから
- ・字はそのまま、**「かみさき」**と読む

幸崎小中学校:⑤

- ・神崎だと神崎(かんざき)小学校と間違える。幸崎だと駅名と同じなので認識されやすい
- ・こうざき小中学校だと中学校にひらがなはすぐわなく感じるので、駅名と同じが良い
- ・子どもたちにとっての幸せがある場所であってほしい
- ・こうざきという名のひびきは残したい。これから先「幸せ」があるといいなどの願い
- ・「**幸せの崎**」で幸崎
- ・駅と同じ名前の方がわかりやすい

こう崎小中学校:②

- ・ひらがなと漢字を組合せた。
- ・神崎小中学校となると神崎(かんざき)小学校との関係が・・・と思う

もみのき小中学校:①

- ・木佐上、神崎、志生木は縦の木山に囲まれた地形でシンボルになると思う

海星神崎小中学校:①

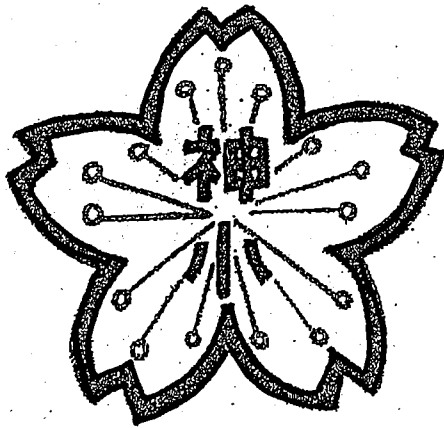
- ・海があること。今までの名前もなくしたくないため

神(こう)小中学校:①

- ・一文字でインパクトが強く、すぐ覚えてもらえる。自分たちもポジティブな気持ちになる

神志馬木(こうしめき)小中学校、神志木(かみしき)小中学校:①

- ・神崎、大志生木、木佐上の小学校の統合があり、その3校に居た子どもたちが、中学生になっていくので、頭文字を残したい



校歌

作詞 緒方 弘
作曲 池辺 徳市

一 若草もゆる 川の辺に

鶴見の雄姿 仰ぎつつ

しょうじやのごとく おこそかに

そびえてたてる まなびやは

われらが集う こうざき校

二

見よや けんらん咲きにおう

桜花のごずえに 風ふけば

おおいろうの 朝ぼらけ

若き光の はゆるとき

われらの心 躍るなり

神崎中学校校歌

作詞 藤原 信
作曲 千本延隆

一、雲はるか 由布をのぞめば

理想はたかく 向学の

心もえたつ いざ友よ友

豊のうみ てりはゆごとく

真理つらぬき 知恵を磨きて

明るき社会 ここに築かん

ああこれぞ 神崎

われらが中学校

二、風そよぐ 希望ヶ丘に

ちかいかたたく 自主の旗

清くはためく いざ友よ友

白き砂 きらめくごとく

光り輝く 自由を求め

くわしき校風 ここに立てなん

ああこれぞ 神崎

われらが中学校

三、緑こき もみの木山を

朝夕仰ぎ 若き日の

命はぼたく いざ友よ友

青き松のびゆくごとく

力あふるる 体きたえて

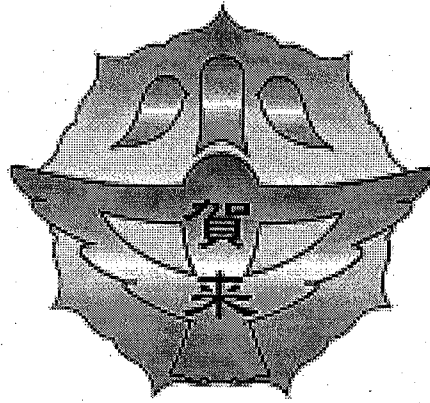
ゆたけき未来 ここにおもわん

ああこれぞ 神崎

われらが中学校

賀来小

校章



一 せんだんの

ふた葉にかおる窓辺から
 仰ぐ はるかかな 由布鶴見
 ああ あの峰を 行く雲に
 希望をのせて わたしらは
 世界の友と 呼びあつて
 明るいちえを みがこうよ

二 くすの香の

わか葉をそよぐ木かげから
 望む 国分の 寺のあと
 ああ その森を 吹く風に
 力は あふれ わたしらは
 足なみそろえ 肩くんで
 元氣な体 きたおうよ

三 行く水の

瀬音はさえて 賀来の宮
 やねに たのしい 鳥の歌
 ああ この声を 聞く胸に
 まことはもえて わたしらは
 みのりゆたかな ふるさどに
 かがやく歴史 つくろうよ

賀来中

一 明けわたる由布鶴見

わきあがる 希望の胸よ
 ああ この生氣 若き友
 いざや 学ばん
 日に新しく

二 賀来川の水清く

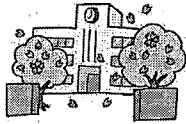
みがきゆく 心の珠よ
 ああ この自立 若き友
 いざや 励まん
 日にたくましく

三 風ひかる みどり野に

松高き 神の宮居よ
 ああ この郷土 若き友
 いざや 開かん
 日にたくましく

四 にじはゆる 空すみで

明日きこえ 進きつばさよ
 ああ この歓喜 若き友
 いざや うたわん
 声たからかに



神崎中学校区併設型小中一貫教育校の制服についてのアンケート

神崎中学校区統合校運営委員会

平成30年4月に移行を予定しております神崎中学校区の併設型小中一貫教育校は、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育校です。

具体的には、前期（1年生～4年生）・中期（5年生～7年生）・後期（8年生～9年生）の3期に分け、児童生徒の発達の段階に応じた教育活動を行うとともに、日常的な異学年交流や学校行事等を通して、自尊感情や思いやりなど豊かな人間性、社会性をはぐくむなど、創意工夫をいかした特色ある教育を実施します。

現在、神崎中学校区統合校運営委員会では、制服について検討を行っています。

つきましては、保護者の皆様のご意見を聞きながら、対応を検討したいと考えておりますので、下記の①～③の内容につきまして、ご意見、ご要望等をご記入のうえ平成28年12月16日（金）までに、学校あてご提出いただきますよう、お願いいたします。

なお、制服の教育効果や費用等につきまして、裏面の資料を参考にさせていただきたいと思ます。

***裏面に資料あり**

..... 切り取り線

制服についてのアンケート

児童生徒の学年等	年 (男 ・ 女)
<p>1 制服を検討する場合、下記の①、②のどちらに賛成ですか。 【 】に○印を付け、ご意見等をご記入ください。</p> <p>① 現在の神崎中学校のデザインを引き続き採用する。【 】 ② 新しいデザインを採用する。【 】</p> <p><ご意見等></p>	
<p>2 制服を検討する場合、下記の①～③のどの期から導入するのがよいと思いますか。 【 】に○印を付け、ご意見等をご記入ください。</p> <p>① 前期（1～4年生）から 【 】 ② 中期（5～7年生）から 【 】 ③ 現行どおり（7年生～） 【 】</p> <p><ご意見等></p>	
<p>3 その他ご意見、ご要望など</p>	

資 料

<制服を導入した際の教育効果>

- 所属意識・仲間意識を高める。【連帯感・一体感】
 - ・学校への所属意識が生まれ、愛校心がはぐくまれる。
 - ・同じ衣服を着用する友だちとの連帯感が強まり、一体感が生まれる。 など
- 地域や社会から認識・保護される。【安全性】
 - ・どこの学校の児童生徒であるか分かり、地域の人々がはっきりと認識できるようになる。
 - ・保護者の立場からは、子どもが地域の人々から見守られているという安心感が生まれる。 など
- 規範意識を高める。【規律性】
 - ・公私を区別し、集団生活をするうえで必要な規範意識が高まる。
 - ・フォーマル性を兼ね備え、時と場に応じた着こなしを学ぶことができる。 など
- 衣服費用の軽減を図る。【経済性】
 - ・成長期の子どもに対応した耐久性に優れた素材や縫製を採用しており丈夫である。
 - ・入学式、卒業式をはじめ、冠婚葬祭等に着用できる。 など



<神崎中学校の制服の費用>

<男子>	6タイプあり	<女子>	4タイプあり
詰襟	36,000~27,000円程度	セーラー	38,800~29,800円程度

<賀来小中学校の制服の費用> *制服一着当たりの金額は、児童生徒数の状況に応じて変動します。

【1~4年生】

<男子>		<女子>	
半ズボン	6,000円程度	スカート	9,000円程度

<男女兼用>

ポロシャツ	1,000円程度
ベスト	3,000円程度
セーター	2,600円程度

【5~9年生】

<男子>		<女子>	
ブレザー	20,000円程度	ブレザー	20,000円程度
スラックス	10,000円程度	スカート	12,000円程度
カッターシャツ	2,500円程度	ブラウス	2,500円程度
ワンタッチネクタイ	2,000円程度	ワンタッチリボン	1,500円程度

<男女兼用>

ベスト	3,500円程度
セーター	4,000円程度

1~4年生



5~9年生



<賀来小中学校（1~4年生、5~6年生）の制服についての意見>

○賛成意見

- ・統一感があり、賀来小中学校であることがすぐにわかる。
- ・長期的にみれば、経済的である。
- ・着せる服に気を遣ったり、悩んだりしなくて済む。
- ・おさがり、バザー、制服バンクが活用できる。
- ・白のポロシャツは安価なものが、手に入りやすい。
- ・洗濯は私服と同様に可能であり心配ない。等

○反対意見

- ・購入に費用がかかる。
- ・兄弟姉妹がいるので、支出が大きい。等

○その他

- ・女子のスカートは、運動・遊びによっては、下着が見えそうになることが若干心配である。
- ・外遊びにおいて、制服が汚れないように気を遣っている子どもがいる。等

*表面にアンケートあり

平成28年12月実施 保護者対象 制服についてのアンケート集約結果

(1) 制服について、どちらに賛成か。

- ① 現在の神崎中学校のデザインを引き続き採用する。
- ② 新しいデザインを採用する。

	①	②	その他	合計
こうざき小保護者	31	26	2	59
神崎中保護者	29	8		37
合計	60	34	2	96
割合(%)	62.5	35.4	2.0	—

①の理由

- ・ 兄弟姉妹がいる場合に経済的な負担が大きい。
- ・ 今までのお下がりが使える。
- ・ これまでのデザインで良いと思う。男女ともに中学生らしくて良いと思う。
- ・ 今の制服がかわいいから。
- ・ 別に変える必要がないから。

②の理由

- ・ 自宅で洗濯できる素材、デザインが良い。上着が簡単に着脱でき、洗える方がよい。
- ・ 導入するのであれば将来的に考えて新しくすべき。
- ・ 時代に合っていない、古い。一新してブレザーなどに変更した方がよい。
- ・ 地域の方など、目に見えて変わった事がわかるように、新しいデザインにすべき。
- ・ 心機一転デザインを変えた方がよいと思う。
- ・ 今の女子の制服は、直に着るので個人的には好きではない。
- ・ ブレザーの方がよい。アイロンをしなくてもよい物がよい。

(2) 制服について、下記の①～③のどの期から導入するのがよいと思いますか。

- ① 前期(1～4年生)から
- ② 中期(5～7年生)から
- ③ 現行どおり(7年生～)

	①	②	③	その他	合計
こうざき小保護者	5	13	38	3	59
神崎中保護者	2	7	27	1	37
合計	7	20	65	4	96
割合(%)	7.3	20.8	67.7	4.2	—

①の理由

- ・ 私服がいない分経済的。
- ・ 1～4年生、5～9年生でそろえたい。

②の理由

- ・ 中学校で勉強する学年は同じ方がよいと思うから。
- ・ 同じ校舎内で私服と制服がいるのは不自然。
- ・ 5年生ぐらいから服装にうるさくなるので制服の方が経済的になる。
- ・ 低学年は汚すため制服はもったいない。
- ・ 前期からの購入だとサイズが変わるので、買い替えが必要になる。

③の理由

- ・ 経済的にも負担になるので現在のままでよい。何度も作らないといけなくなるのでは。
- ・ 小中一貫教育になっても小学生と中学生の区別はした方がよいと思う。
- ・ 小学生のうちは服を汚すことを気にせず伸び伸びと遊んでほしいから。

(3) その他ご意見、ご要望など

○ 制服について

- ・1年～6年までは私服の方が気にしなくて遊べると思う。
- ・前期、中期には通学帽を導入して、「神崎」とわかるようにしてもよいのではないか。
- ・他の面で変えなければいけない物事があると思う。制服はそのまま歴史を残す物としてほしい。
- ・無理に新しくしなくてもよい。
- ・小学生は休み時間に体を使って遊ぶことも多いので、制服では運動しにくくなると思う。
- ・小学校1年生で制服を作ったとしても、それがいつまで着れるのかもわかりません。
- ・制服が変わるなら、中3、中2も購入するのか。H30年が変わるなら前年に購入できるか。
- ・みんな決まった制服にして、5～9年生はブレザーがよい。
- ・一人親で子どもが多く、お金がかかる。
- ・中期からだ、神崎中ではなく、他の中学校に進学する時に、2年しか着用できないため。
- ・前期、中期は子どもの成長が早いので、制服だと2～3年ごとに買い替えが必要になる。
- ・行事や教育活動が行われるかわからないので、現時点では制服の必要性を感じない。
- ・動きの活発な前・中期の子どもたちが、汚れなどを気にせず思いっきり遊ぶことができるか。
- ・制服は破れたりするとその都度買い直しをしなないといけなくなる。
- ・低学年女子のスカートの制服は遊ぶのに不便だし、下着が見えるのではないかと不安。
- ・新しい制服のデザインもなく、値段もいくらぐらいするかもわからないので、なんとも言えない。
- ・制服を汚すといけなく、高いので何着も買えない。大事に着るとなると制服の必要性がない。
- ・制服のため外での元気な遊びを自主的に控えるようになってしまうのでは。子どもの成長や体力的にも問題の原因の一つになるのではないかと心配。小学生は汚れてもよい服で登校がよい。
- ・前期など、なるべくスカートでない方がよいと思う。
- ・制服は子どもが場に合った服装を考える機会(自主性)を奪ってしまうのではないかと思う。
- ・賀来のように人数も多くないので、制服によって地域の方が認識ということもないと思う。
- ・制服の指定業者からの購入はやめてほしい。通販でも安くブラウス、シャツ、ポロシャツ、スカート、ズボン等が購入できるので、自由に購入する形にしてほしい。
- ・中学校入学後に制服のデザインが変わった場合、新たに購入するということになるのか。

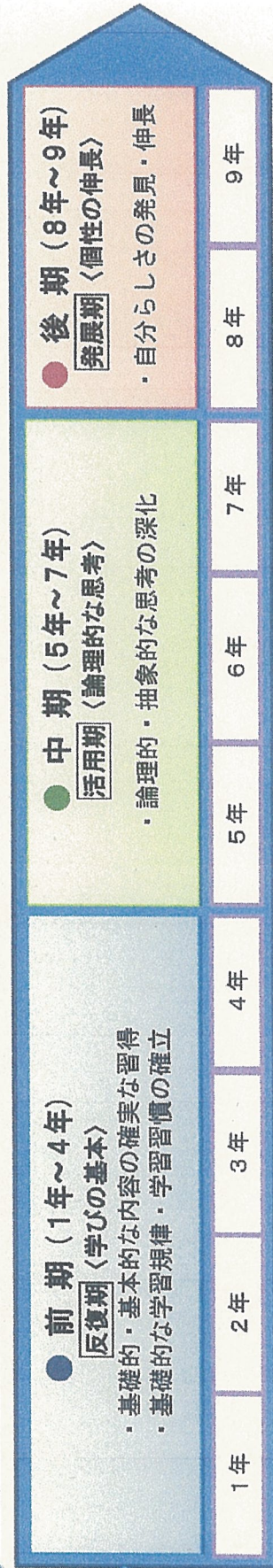
○ 体操服について

- ・体操服の長袖、長ズボンを作ってほしい。
- ・体操服も冬用の長袖、長ズボンを採用してほしい。
- ・制服、体操服にネームを入れないでほしい。リユースが難しくなる。
- ・体操服はどうするのか。1～6年生は今のままでよいのか。
- ・体調に合わせて着れるので、体操服の冬服も考えてほしい。
- ・体操服等のデザインも変わるのでしょうか。

1 各期別の特徴的な取組等についての概要（案）

H29. 1. 31（火）作成

義務教育9年間で前期(4年)・中期(3年)・後期(2年)に区切り、一貫した教育カリキュラムを編成・実施



● 前期（1年～4年）

反復期〈学びの基本〉

- ・ 基礎的・基本的な内容の確実な習得
- ・ 基礎的な学習規律・学習習慣の確立

● 中期（5年～7年）

活用期〈論理的な思考〉

- ・ 論理的・抽象的な思考の深化

● 後期（8年～9年）

発展期〈個性の伸長〉

- ・ 自分らしさの発見・伸長

各期の節目の式

教科等の指導体制

児童会・生徒会活動

縦割り班の交流活動

学習・生活のきまり

全学年で英語授業

乗り入れ授業

クラブ活動・部活動

学級担任制

学級係活動

学級係活動

学級担任制（一部教科担任制）

教科担任制

学級係活動・児童生徒会活動【前期:副会長、専門委員長 中期:副会長、議長、専門委員長 後期:会長、副会長、議長、専門委員長】

縦割り班活動【班結成式(4月)、合同遠足(4月)、合同運動会(5月)、合同清掃(6・10・2月)、合同除草(夏休み)、合同文化祭(11月)、班解散式(2月)】

授業7原則【①席で黙想②あいさつ③姿勢を整える④集中⑤自分の考えを持つ⑥大きい声で発表⑦教え合う】、生活4原則【①身だしなみ②無言そうじ③先手あいさつ④時間を守る】

英語 1、2年生：各15時間/年 英語 3、4年生：各35時間/年 英語 5、6年生：各70時間/年 英語 7、8、9年生：各140時間/年

全教職員に兼務発令【5年、6年を中心に実施…英語・算数・理科・音楽・美術・体育・家庭】

クラブ活動(6年生の希望者は、3学期末から部活動へ参加)

部活動(ソフトテニス・卓球・ハレーン・野球・サッカー・社)

(※注：併設型小中一貫教育校への移行措置として、平成29年度の小学校卒業式と平成30年度の中学校入学式は実施する。)

★ 併設型大分市小中一貫教育校 こうざき小中学校 ★

2 特色ある教育活動

★ 児童生徒に力をつける授業

★ 5・6年生の一部教科担任制

平成 28 年度

外国語活動で中学校英語教員と 5・6 年生担任によるチームティーチングを実施

5・6 年生の図工を中学校美術科教員が担当



★ 9年間を見通した教育

「ことばの力」系統表を作成し、小1 から中3までの学年毎につけたい力を意識した授業を実施。

★ 小・中教員共同の力で高める授業力、深める児童生徒理解

★ 年3回の合同授業研究会

よりよい道徳や教科の授業をめざして、小中それぞれの視点から授業力向上の研究を実施



★ 児童生徒理解の研修会

自尊感情や自己他者評価のテスト結果の分析方法を小中教員で学習。児童生徒理解に活用。



★ 9年間を見通した系統的な家庭での学習習慣作り

★ 家庭学習の手引き

低・中・高学年・中学生の4つの段階ごとに家庭学習の手引きを作成。発達段階に応じた家庭学習の内容や学習方法等を紹介。

★ 家庭学習習慣化ウィーク

中学校の期末テスト期間を利用して、ノーTV・ノーゲームDAYの設定や、学習時間の確保などに家庭と学校が協力して取り組む。

★ 異年齢集団の活動で心育て

学年を越えた縦割り班でウミガメを呼び戻す海岸清掃。中1生徒が小6児童の「中学校体験入学」を企画・実行。中学生が夏休みの「小学校スタンプアップ」で「先生」役に。

